会議開催結果

1	会議の名称	第8回砥部町立中学校統合検討委員会
2	開催日時	平成 19 年 10 月 29 日(月) 午後 7 時から
3	開催場所	砥部町農業研修センター
4	審議等事項	経過説明 【議案】 1 閉校関係事業について 2 統合に必要な事項に関する答申(案)について 3 その他
5	出席者名	【委員】 砥部中学校長 本馬 毅 砥部中学校PTA会長 安岡史朗 広田中学校長 水沼節子 広田中学校PTA会長 人保野伸一 玉谷小学校長 長谷美保 玉谷小学校PTA会長 相原 太 広田小学校長 堀田優子 広田小学校PTA前会長 山田義秀 高市小学校長 間部量吉 高市小学校PTA会長 清水一德 砥部地区小学校保護者代表 奥田富美(代理) 広田小学校区長 肥田禎之 玉谷小学校区長 門田行雄 高市小学校区長 向井正博 地域審議会委員代表 松永弘幸 広田中学校教頭 福島和彦 砥部中学校教頭 垂水 勉 砥部中学校教頭 垂水 勉 砥部中学校副参事 森 厚 広田支所長 丸本正和 【教育長】佐野弘明 【事務局】松村曻二・西松伸一・門田敬三・佐々木毅
6	公開又は非公開 の別	公 開
7	非公開の理由	
8	傍聴人数	1人
9	所管課	砥部町教育委員会 学校教育課 電話 962-4820

第8回 砥部町立中学校統合検討委員会 会議録 (要旨)

発言者	発言内容
事務局	開会
委員長	前回の検討委員会で、「通学方法」、「生徒の心のケア」、「学校行事等の交流事業」については、ほぼ方向性が示されたと思う。本日は、「閉校関係事業」と「統合に必要な事項に関する答申(案)」について協議したい。まず、「閉校関係事業」についてご意見を頂きたい。通常、記念式典は町で行い、記念行事などは、学校・PTA・地域のOBなどで行われているようである。前回の検討委員会で、広田中学校から提案していただくとのことであったため、広田中学校からご意見を頂きたい。
委員	広田中学校のPTAと検討した結果、案ではあるが次のことを検討した。
	1. 役員会兼準備委員会としてPTAの組織を母体とした 10 名で構成する「広田中学校閉校記念行事準備委員会(仮称)」、実行組織として広田地区区長会代表など 19 名で構成する「広田中学校閉校記念行事推進委員会(仮称)」と歴代のPTA会長など 21 名で構成する「広田中学校閉校記念誌編集委員会(仮称)」の立ち上げ。
	2. 閉校記念行事の開催時期(平成21年2月から3月の間に実施。)
	3. 記念式典の実施(式典、広田中を語る会、懇親会を一例として 考案。)
	4. 記念碑・除幕式の実施(設置場所は「ふるさと苑」あたりとし、サイズやデザインは検討を要する。)
	5. 記念品の配付(内容や配付数は検討を要する。)
	6. 航空写真の撮影(1 学期中に撮影するものとし、内容や活用方法は検討を要する。)

- 7. 現在ある卒業記念品の処理方法。
- 8. 閉校記念誌の製作(平成 20 年 4 月から作成を開始し、閉校記念 式典時に配付を検討しているが、記念誌編集委員会の承認が必要 となる。)

以上が検討した内容であるが、ご意見をお願いしたい。

委員長

閉校関係事業について、皆さんのご意見を頂きたい。

委員

5年後、10年後に校舎が残っていなかったことを考えて、記念碑などは是非設置していただきたい。卒業生としてもお願いしたい。

記念品については、全戸に必要かどうかは、今すぐ答えられないが、 広田地区の殆どの方が広田中学校を卒業されていると思われるので、 予算の許す限りで製作をお願いしたい。また、地場産業の砥部焼の活 用も一つの手ではないかと思う。

記念誌については、思い出として持っておきたいので製作をお願い したい。

委員

閉校関係組織の案について、こういう組織であれば記念行事の実行が可能であるだろうということから案を出している。閉校関係記念行事準備委員会は本格的な組織を立ち上げるまでの準備段階の内部組織として良いのではないかと思っているが、実行組織のメンバーについてご検討いただくとありがたい。記念行事推進委員会には、町関係・学校・PTA・地域の方々を入れている。また、閉校記念誌編集委員会については、創立 50 周年を迎えるときに、記念誌の製作と記念式典を行っており、この時の動きを知っている 50 周年式典実施年度以降のPTA会長をメンバーに入れることとしたが、これについて皆様からのご意見を頂きたい。

委員長

皆さんのご意見を頂きたい。

委員

記念誌の構想案について、価格例(400冊で1冊5,000円)が記載されているが、印刷部数により金額差がある。実際に記念誌を製作した場合に、400冊未満になる場合もある。その場合、価格が割高になる。多くの方に記念誌を持っていただきたいため、購入しやすいように助成をお願いしたい。

400 冊というのは、OBも入れているのか。

委員

そういったものではなく、1つの価格例である。

委員

例えば、事前に予約を取っていけば、ある程度の発行数は見込める のではないか。

委員

幾らか、何人ぐらいか全く分からない状態では難しいのではない か。

委員

卒業生に案内する場合に、1 冊の価格が 4,000 円と 5,000 円では違いがあるだろう。ただ、事前にOBに案内するのも 1 つの手段であると思う。

委員

価格を決めないとできない。1冊5,000円として案内していたところ、後日、冊数の減少により追加負担をもらうことは難しい。少しでも助成していただいたら、ある程度の条件提示をして案内できるのではないかと提案した。

教育長

閉校関係の組織については、町が指示する内容ではないため、広田中学校が中心になって、学校に関わりのある方の意見を採り入れられるような組織を立ち上げていただきたいと思っている。

記念誌については、記録として必要であると思っている。ただ、価格によって発行部数が分からないということから、例えば一定価格を示して卒業生を含めて購入の取りまとめをしていただいて、それを元に助成金を予算化する形を採らせていただきたい。また、構想では印刷費が約150万円必要とのことであるが、原稿を執筆する段階である程度完成に近い形で業者へ印刷を依頼するなど、できるだけ多くの方に安価な価格で手元に届く方法を検討していただきたい。

町としても記念誌の発行に関していろいろな方法があり、記念誌の 実行委員会で作り上げたものを必要な部数だけ町が購入し配付する 方法や、ある程度の金額を全体に対して支援する方法などがある。

いずれにしても、予約販売をする部数を確定しないと単価が決まらないのではあるが、もう少し価格が安くなる方法を検討していただきたい。

これは準備委員会からの一例であり、実際には記念誌編集委員会で 決定することになる。準備委員会では、町からどの程度の補助ができ るか示していただかないと、どの程度のものを製作したら良いのか予 想がつかない。

教育長

現時点では全体の金額が分からないため、示すことは困難である。 しかし、補助金額を示さなければ記念誌の予約単価が設定できないと いうことで難しいところがあるのだろうが、先程も申し上げたよう に、印刷業者への原稿の持ち込み方で印刷費が違うことから、そのあ たりを工夫することで価格は下がる。

課長

1冊の価格がどの程度であれば、購入してもらえるのかということだろう。

委員

広田地区の各世帯に、広田中学校卒業生が1人はいると思う。5,000 円もするのであればいらないという人もいると思うので、町の負担で 一戸に1冊いただけるよう教育長に頑張っていただきたい。

委員

私も先程の委員さんと同じような意見である。先程からの説明からすると、かなり経費がかかりそうな気がするが、行政が負担経費と地域が負担する経費を振り分けてみると分かりやすいと思う。記念誌については、できるだけ行政で負担していただいて全戸に配付できるように考えていただきたい。

委員長

若い方の意見としてはどうですか

数はここで話しても埒が明かない。いろいろな具体的な方法を幅広く考える方法も良いのではないか。世帯数にするのか、生徒数にすると大変な調査が必要だろう。どの程度の範囲にするのか、具体的な資料を基に確認しながら進行しなければ話が進まないのではないか。

委員

大きな問題は予算の問題だと思う。会費や寄付を募って、集まった 金額によってどの程度のものができるのか、また、集まらないのであ れば他に方法はないかなど、予算のたて方が重要になってくるだろ う。その後で部数などは決めたので良いのではないか。

今の意見について、前回か前々回の検討委員会で、式典などの経費として、どの程度予算計上する必要があるか金額を計上して欲しいとのことであった。私としては当然、寄付金を集めなくてはいけないと思うが、寄付金を集まるものとして概算で計算した寄付金額を基に計上すれば良いのか分からない。寄付金の使い道としては、いろいろな物に充てることができると思う。

委員

この席では、発行する記念誌をどのような範囲で発行するのかを検 討するのか。

教育長

本日ご検討いただくのは、行事や記念誌の発行を行うのか、行わないのかといった大まかな方向性である。細かい内容については、先程説明にあった組織を立ち上げて検討していただくことになる。

前回、新年度予算についてお話させていただいたが、補正予算で対応できるものもあるため、年度当初から必要な予算について 11 月末までにということであった。ある程度固まってからでなければ出ない数字もあるため、全てを当初予算で計上する必要はない。

ここでは、例えば、式典、記念碑、記念品、航空写真、記念誌といったことを、中学校で検討された案を基にご協議いただきたい。

委員長

中学校でご検討いただいた案で進めるべきか、記念行事準備委員会 あるいは記念行事推進委員会、記念誌編集委員会の委員は、案に記載 されている方々で良いか、皆さんのご意見を頂きたい。

委員

いろいろな委員会があるが、この委員会の位置づけとしては、学校内の組織として捉えて良いのか。

委員

記念行事準備委員会は閉校記念を実施するための組織であり、学校の組織ではないだろう。記念行事推進委員会と記念誌編集委員会は広田中学校が基になったものであるから学校の組織となるのではないか。

委員

記念行事準備委員会は、委員会の設置者が誰であるのか。

委員

記念行事準備委員会の設置者は教育委員会ではないかと思う。

記念行事は町立の学校を閉校させる訳であるから、町主催という視点で行わなければならないだろう。設置者が誰であるかを考えた場合、町としての考え方を示していただけるような方にメンバーとして入っていただきたい。町主催で行う式典であることを念頭にメンバーをご審議いただきたい。

委員

閉校記念行事等に関する検討資料(案)についてであるが、その中では記念式典、記念碑・除幕式、記念品、航空写真、その他と分かれている。これらを一括して行うのが町であるか学校であるかを考えると問題が出てくるだろうが、記念式典については町が主催して行うべき問題で、それ以外の記念碑からその他までは広田中学校が中心になって検討していく事項ではないか。

委員

町立の学校ですから記念式典は全て町が行うのが当然だろう。

課長

資料の中の記念式典は「式典」、「広田中を語る会」、「懇親会」で構成されているが、一般的にはその内の「式典」が記念式典であり、「広田中を語る会」と「懇親会」は記念行事として分類されるものと考える。だからといって、町が手を差し伸べないというわけではない。

教育長

記念式典や記念碑などを全てあわせた閉校記念行事として準備委員会という組織でご検討いただくこととなった場合に、閉校記念式典当日の案内は、町と中学校長とPTA会長の連盟がとれるだろうが、準備委員会の招集は誰が行うべきか検討する必要がある。

委員

旧美川村で4校が閉校したときには、各校区に閉校推進事業委員会のようなものを立ち上げた。委員長は各校区の公民館長とし、その他に区長又は組長、PTAの方々で構成していた。閉校記念誌については、学校とPTAが中心に作成した。町は、閉校記念式典、今回でいう「式典」までを町主催として行い、「広田中を語る会」、「懇親会」からは閉校推進事業委員会が主催として行った。このように切り離して行ったことで、町からの制限もなく自由に行うことができた。ただし、予算はつけていただいた。記念誌については、村に予算をつけていただき、各戸に配付したり、原稿を送っていただいた方に配布した。

委員

広田中学校としては、記念碑、航空写真、記念品、記念誌について

全て行いたい。その中で役割の問題があったが、式典は行政が行うが、 残りは広田中学校が行うというのは非常に困難である。全体を行政が 主として行いながら、中学校も役割分担を果たすという方法が良いと 思う。

教育長

町としては、「式典」以外のことには全く触れないということではない。全体を進めていく中で、ご相談させていただきながら、予算措置が可能なものについては措置していかなければならないと考えている。全体を考慮に入れることは考えている。ただし、厳しい財政事情の中で全ての要望を聞き入れるのは、非常に難しい。

委員長

教育委員会が中学校や地域にアドバイスしなければ、まとまらない だろう。予算さえ組めば良いということではまとまらない。

委員

近隣の町村でも、このような事例がたくさんあろうかと思うので、 研究したり見習ったりしてアドバイスをいただかないと、どうにもな らないだろう。

課長

記念行事関係を推進する委員会で行うべき行事関係については、広田中学校から委員構成の案が出ているが、この中に教育委員会も入って相談しながら進めて行きたい。

委員長

これで形が整う。

課長

記念行事推進委員会が正式に決まれば、教育長が委嘱して一緒に進めて行きたい。よろしくお願いしたい。

委員

準備委員会では閉校記念行事として何を行いたいかということを 柱として案を作成した。式典に必要な諸経費について、どの程度検討 を進めていっていいものか分からない。記念碑、記念品、記念誌につ いてどこまで援助していただけるのかを示していただけると、前へ足 を踏み出せるのではないか。

委員

ここでは、閉校関係行事推進委員会のことを決めていただきたい。 まずは、記念行事のことを検討するため広田中学校閉校記念式典推進 委員会を立ち上げ、委員をこの方々にするということを答申していた だきたい。その後、委員を委嘱して検討していくようにしなければ前 に進まない。ただし、学校が推進委員を委嘱するのはおかしいのでは ないか。

教育長

確かに、検討事項の細かい内容をこの統合検討委員会で全て検討していたら進まない。細かい内容はこの統合検討委員会で承認された組織で検討していただきたい。そして、推進委員会については、先程も学校教育課長が申し上げたように教育委員会が教育長名で委嘱し、記念誌編集委員会については、学校とPTA会長さんで委嘱する。その後、それぞれの組織で詳細を検討するということで良いのではないか。

委員

それでは、組織作りについて、案として提出されている委員に教育 委員会が加わることでご承認いただきたい。この場では、これ以上の 内容について検討しない方が良いと思うが意見はないか。

委員

(全員意見なし)

教育長

ご希望など、伺ったご意見は参考にさせていただく。

委員

委員について、委員を限定して答申するのか。それとも例示とするのか。答申であるから、最終的には教育委員会が判断するのだから限定しても良いと思うが、例えば広田支所長については、組織機構の見直しを行っているため、今後どうなるのか分からないので気になった。

教育長

そういった細かいところについては、臨機応変に対応したいと考える。

委員長

それでは、「閉校関係事業について」の検討は、終了させていただく。続いて、「統合に必要な事項に関する答申(案)について」の説明を課長にお願いして、皆さんの意見をお願いしたい。

事務局

答申案を作成したので読み上げさせていただく。確認していただいて、足りないものは加えていただき、また持ち帰って検討していただくのも可能である。答申書であるため、細かいことは記載していない。

全体の流れが分かるように作成している。

(事務局読み上げ)

事務局

今まで統合検討委員会で検討した内容を集約して作成させていただいた。閉校関係事業については、この方向で実施できるのか、また町がどこまで負担させていただくのか、本日、この統合検討委員会でこの答申を承認していただければ、次の段階で、ある程度方向を示すことができる。その後各実行委員会で検討を始めることとなる。

委員長

説明が終了したが、ご意見をお願いしたい。

委員

通学方法について、保護者が心配するのは長期休業中の部活動のことであるが、「バスの運行は安全確保を第一に、部活動の登下校などその時の状況による柔軟な対応が必要と考えます。」との表現の中に、長期休業中というのは意味合いとして入っているのか。

教育長

入っている。

委員

「部活動の登下校」というところに、長期休業中の部活動もはいっているのですね。

事務局

学校が休みだからバスの運行を行わないわけではない。臨機応変に 対応する。

委員

答申書の内容に問題はないと思うが、一応、保護者に了承を得た方が良いと思う。その場合、いつまでに保護者へ了承を得る会をもって報告すれば良いのか、答申書を教育委員会へ提出する時期を参考に教えていただきたい。

課長

現在考えているのは、次回の検討委員会において、皆さんに最終承認いただいて、委員長から教育長に答申書を提出していただきたい。そのため、答申案に対して意見がある場合には、教育委員会で修正するため、事前に教育委員会へ連絡をいただきたい。その後、修正したものを次の検討委員会で図り、承認されれば答申書を提出していただくことを考えている。11月下旬には9回目の検討委員会を開催し、

答申案を決定することとしたい。

委員

それでは、保護者等から意見が出た場合には、早急に教育委員会へ 問い合わせ等を行い、確認するようにする。

委員

通学方法について、運行時間は朝の通学時に1便とされている。以前に砥部中学校長より、部活動の朝練は保護者への負担であり、子どもの健康に配慮することからも朝練は必要ないのではないか、限られた時間ではあるが放課後の部活動で十分に力をつけることができるのではないかと言われていたが、現時点で砥部中学校では朝練を行っているのか。統合後の朝練については、どのように考えているのか。

委員

現在、朝錬を主に行っている部活動は3つあるが、毎日しているわけではない。統合後のことを考えると、現状を検討する必要がある。前にも申し上げたが、私の考えでは健康と学校への適応を第一に考えている。一定の期間を設けて、朝錬を見直し、子どもたちの健康や孤立しないような対応について、全部の部で検討しないといけない。

委員

朝練について誤解しているわけではないが、朝練に参加するかどうかで、上達の程度の違いやチーム内の人間関係に影響するのではないか。大会への出場により流動的に朝錬を始めた場合、保護者が連れて行くという負担が発生するのではないか。朝の通学として1便の補償があるが、完全な補償であるのか、一部保護者負担有りの補償なのかが気になる。以前、砥部中学校長の意見をいただいた時に、統合を期に朝練が姿を消し、子どもたちは同じ条件で部活動を行うことができるのかと思い安堵した。

委員

朝練については検討する。ただ、朝練は7時過ぎから始める。高市を6時に出発するとしたら5時過ぎに子どもたちは起きて、保護者は食事を準備することになる。それが教育的に正しいことなのか。そのあたりは十分配慮して検討する必要がある。朝練に参加できないことは、子どもたちの責任ではないのだから、選手の選考には、部活動の指導上のことからも配慮すべきことであり、砥部中学校全体の部活動において、もう一度しっかりと検討する必要はある。

委員

閉校関係事業についての答申の中に、具体的に「推進委員会(仮

称)」、「編集委員会(仮称)」を入れる必要はないのか。

教育長

「専門的な組織」という文言に含まれている。

委員

本日検討した推進委員会の設置についても、答申に入っているということになるのか。

教育長

なると考えている。

課長

既に委員の皆さんが、資料を見られて検討委員会の中ではご確認いただいていることを前提に答申案を作成させていただいたため、ご理解いただけていると考えている。

委員長

その他に意見をお願いしたい。

委員

通学方法のことであるが、マイクロバスの停留所が各校区別という 考え方であるが、途中の乗り降りは考えられるのか。

事務局

基本的に 3 箇所のところで乗り降りしていただくことが原則である。家から遠い場合に、自転車で来られるのであれば停留所に新設を考えている自転車置場まで来ていただく。徒歩や保護者が連れてこられるのであれば、別の場所で乗り降りすることは可能になると考える。

委員

以前にもこの検討委員会でも検討したが、生徒の安全面を考えて、できるだけ決まった所で乗り降りする方が良い。途中の乗り降りを可能にすると、何かあったときに途中で生徒がどうなったのか分からない。集まる場所を変えるなら良いが、一人一人が別の場所で乗り降りするのは危ない。また、登校の時は、できるだけ乗車回数が少ない方が早く学校に着き、下校の時は降車回数が少ないほど早く家に着く。スムーズな登下校を行い、安全性も確保できることから、3箇所で乗り降りするのが良い。

委員

通学方法を決めたときに、緊急の場合に連絡が取れることから3箇所に決めた。例えば、満穂のトンネルの所を停留所にすると近くて良いが、いざというときに連絡が取れない。子どもの安全面を考えて3

箇所で乗り降りする方が良い。

教育長

基本的には、3箇所で乗り降りするということで実施し、実施する中で、保護者からの要望があり、尚且つ安全面の対応が可能であれば、別の場所でも乗り降りできるようにすれば良い。

委員

現状では、玉谷関係の場合、一人では不安であるということから橋本商店まで迎えに行っている。上尾峠を通るのに、玉谷まで送り迎えをするのは問題にならないかと考えて意見を言った。

委員

玉谷小学校の児童の保護者の中に、広田中学校の生徒の保護者もいたので、満穂地区の保護者にも相談してもらい審議した結果、上尾峠の所は近くで良いが、自転車の盗難や安全面、また1箇所にすることで登下校をスムーズに行えることから保育所バスの停留所のところを通学バスの停留所とするのが良いのではないかということになった。これは保護者の同意の基に決めたことである。

委員

分かりました。結構です。

委員長

随分ご意見をいただいたが、11 月末に第 9 回目の検討委員会を開催する。それまでに保護者の意見を集約していただきたい。なお、訂正等があれば教育委員会と話し合いをしていただいて、次回には答申ができるようご協力をお願いしたい。

委員

訂正等がない場合も連絡した方が良いか。

教育長

連絡は訂正等がある場合だけで良い。

委員長

大変長時間ご協力を頂き、貴重な意見をいただけた。今後ともご協力いただきたい。

閉会